

明峰小地区福祉委員会 第5次地区福祉計画

地区の特徴

「風光明媚な丘陵地の高台にある明るい峰」が明峰小地区の名前の由来です。

昭和40年代からこの丘陵地帯に開発された戸建て中心の大規模団地の集積で、概ね開発の次期によって8つの自治会にわかれています。

地区内には小学校、中学校、高校があり、また、近隣には宝塚医療大学があります。明峰公民館に加え、7つの自治会館があることも本地区の大きな強みです。高齢化は進んでいるものの、川西能勢口に近いこととと比較的交通の便が良いことから若者の転入もあり、年代別人口バランスのとれた地域です。

明峰小地区の人口、世帯数、高齢化率推移



社会構造などの変化

- ◎人口減少社会の進展及び社会保障費の負担増
- ◎AIやSNSなどの進化による生活様式の大きな変化
- ◎多発する大規模災害、詐欺などの増加
- ◎公共交通の維持が困難に
- ◎地域活動の担い手不足

- → あらゆる住民の社会参加による住民同士の助けあい活動の推進
- → ICTを活用する機会の拡充
- → 平時のつながりを軸にした住民同士のつながり
- → 多様な移動手段の確保と歩いていける距離で 課題が解決できる仕組みづくり
- → 具体的な人材確保の情報発信と口コミ

第4次地区福祉計画からの課題など

◎安心サポート活動(重点1)

- ◇民生委員とのさらなる連携
- ◇個人情報含む見守り体制の整理

◎サロンたんぽぽ(重点2)

- ◇スタッフと参加者との重なりを作っていく
- ◇サロン担当者間の情報共有

◎75歳以上高齢者の集い(重点3)

◇より小地域で誰もが参加できる「青空ふれあい 広場」に移行。引き続き推進を

◎人材の発掘(重点4)

- ◇手挙げ、有償でのボランティア活動の推進
- ◇活動の入り口を広げていく

◎その他

- ◇子育て世代へのサポートの拡充
- ◇地域課題を多様な主体で考える協議の場の充実
- ◇障がい者と接する機会を増やすことから始める
- ◇認知症の方を含む多様な方が集う場づくりを重視

地区別ワークショップでの意見

○安心サポート活動(重点1)

- ◇異変に気付く見守り体制づくり
- ◇常日頃の会話と見守りの連動

◎サロンたんぽぽ(重点2)

- ◇気軽に立ち寄れる住民同士の後押し
- ◇学校に行けない子どもの居場所づくり
- ◇自宅開放の協力

◎75歳以上高齢者の集い(重点3)

- ◇みんなが集える楽しいイベントの企画
- ◇大人と子どもが触れ合える
- ◇負担を分け合える協力体制

◎人材の発掘(重点4)

- ◇これをやりたい!をみんなで応援
- ◇活動者が楽しく活動する
- ◇いきがいとやりがい

◎その他

- ◇生活を支えあう仕組みづくり
- ◇障がいを知る機会をつくる
- ◇子どもを安心して預けられる場所があれば良い

福祉目標

住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり ~つながり・支えあう共生の地域づくり~

現在の地区の取り組み





「災害時は平時の延長」

普段からのつながりを大切にする「今どき、向う3軒両隣」の見守り体制づくり



目的

災害時に助け合える地域となるよう、「安心サポート活動」を通して平時から「今どき、向う3軒両隣」の住民同士のつながりを深めます。

具体的取り組み

共通テーマ 見守り つながり

○避難行動要支援者登録の推進

一人暮らし高齢者などに限らず、災害時の避難行動に不安のある方に対し、避難行動要支援者登録を勧めていく。

<u>○戸別訪問</u>

上記登録にて「日ごろから民生委員・安心サポート協力員の見守り活動を希望」された住民への見守り活動の実施。

○気になる世帯の早めの把握と対応

住民ならではの気付きに早い段階から専門職と連携して対応できるよう、年2回程度の安心サポート 連絡会を実施。



「ひとりぼっちをつくらない」

サロン"たんぽぽ"などの居心地の良い多様な居場所の発展と創出、社会参加の拡大

目的

サロン活動の機能に改めて着目し、「誰もが」参加できるサロン活動にしていきます。

共通テーマ 見守り つながり

具体的取り組み

○居場所の発展と拡充

「歩いていける」居場所の創出、サロンまでの「移動手段の確保」などを検討し、出来ることから実施していきます。

○サロン担当者間の連絡会実施

多様なサロン活動の担当者で意見交換を行うとともに、サロン活動の機能と目的などを共有します。

○スタッフと参加者の重なりを意識した運営

参加者にも時には役割を担ってもらうなど、スタッフと参加者の重なりを意識して運営します。(スタッフが助けられ上手に!)

○サロン活動や青空ふれあい広場などを通した住民理解の促進

例えば、認知症の方の参加を通して実際の生活や対応を学ぶなど、当事者との交流から住民理解を 深めていきます。

○参加しやすい居場所へ

「一緒に行きましょう!」などと住民に声をかけ合えるような、初めての方でも入りやすい雰囲気づくりを行います。



「まずは住民同士で助けあい」 出来ることを交換できる住民同士の支えあい活動の推進



目的

あらゆる地域住民が活躍出来る生活支援サポートの仕組みを充実させます。

共通テーマ 見守り 支えあい

具体的取り組み

〇助けあい活動への支援体制の継続

「たのみ隊(有償)」、「やまびこ会(無償)」の活動充実のため、様々な支援を行います。

- 活動財源の支援
- ・福祉委員会だよりによる広報の支援(活動紹介、人材募集など)
- ○専門職や事業所、企業などと連携した生活支援体制の整備



「知る・学ぶ・協議する・手をつなぐ」 活動を進める基盤の整備

目的

活動を推進する基盤を整え、多様な住民が参加しやすい柔軟な運営を行います。

共通テーマ 基盤活動 福祉教育

具体的取り組み

〇定例会議の実施

総会、役員会、4役会などを開催し、丁寧な組織運営を行います。

○協議の場の充実

福祉ネットワーク会議など、多様な主体が集まって協議する場を広げます。

〇広報

定期的に活動を周知するとともに、人材や財源の確保に努めます。

〇福祉教育の実施

福祉委員研修、福祉講座、視察研修などの福祉教育を実施します。

○地区福祉計画の進行管理

定期的に第5次地区福祉計画の進捗状況を確認するなど、適切な進行管理を行います。

○地域福祉担当をはじめとする社協職員との協働

地域福祉担当などとの協働関係を大切に事業を推進していきます。

明峰小地区 地区別ワークショップ及び地区福祉計画策定検討会議

日 程

内容

▷ 令和5年7月4日(火)

地区別ワークショップ 開催

▷ 令和6年2月6日(火)

福祉ネットワーク会議 開催

※その他地区福祉委員会役員会及び4役会などで協議